

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和5年度8月号

○ 概要

- (1) 令和5年度8月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,980億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+7.3%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,799円（伸び率+5.1%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,813億円（伸び率+2.0%）、薬剤料が5,153億円（伸び率+9.4%）、薬剤料のうち、後発医薬品が944億円（伸び率+2.7%）であった。（→P.4,5）

- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,803円（伸び率+8.0%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.80種類（伸び率+1.9%）、27.4日（伸び率▲2.1%）、76円（伸び率+8.3%）であった。（→P.8,9）

- (3) 内服薬の薬剤料4,134億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+386億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の735億円（伸び幅+43億円）で、伸び幅が最も高かったのは62 化学療法剤の+385億円（総額510億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	4,134 億円 (+386 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(735 億円)	21 循環器官用薬 (553 億円)	11 中枢神経系用薬 (543 億円)
0 歳以上 5 歳未満	17.0 億円 (+2.1 億円)	44 アレルギー用薬 (5.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.3 億円)	61 抗生物質製剤 (2.4 億円)
5 歳以上 15 歳未満	89.9 億円 (+12.8 億円)	44 アレルギー用薬 (28.0 億円)	11 中枢神経系用薬 (27.2 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(8.3 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,596 億円 (+238 億円)	62 化学療法剤 (285 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(276 億円)	11 中枢神経系用薬 (273 億円)
65 歳以上 75 歳未満	896 億円 (+26 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(192 億円)	42 腫瘍用薬 (152 億円)	21 循環器官用薬 (137 億円)
75 歳以上	1,536 億円 (+108 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(258 億円)	21 循環器官用薬 (248 億円)	42 腫瘍用薬 (200 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,799円（伸び率+5.1%）で、最も高かったのは高知県（11,720円（伸び率+6.5%））、最も低かったのは佐賀県（8,367円（伸び率+6.8%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは宮崎県（伸び率+9.9%）、最も低かったのは北海道（伸び率+1.7%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	84.6 %	+1.7 %
薬剤料ベース	18.3 %	▲1.2 %
後発品調剤率	80.5 %	+1.1 %
（参考）数量ベース（旧指標）	60.0 %	+1.1 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+2.7 %	+19.2 % (5 歳以上 10 歳未満)	▲5.4 % (70 歳以上 75 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.3 %	27.5 % (100 歳以上)	10.1 % (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	84.6 %	88.9 % (100 歳以上)	79.3 % (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	808 億円 (+25 億円)	21 循環器官用薬 (250 億円)	11 中枢神経系用薬 (145 億円)	23 消化器官用薬 (98 億円)
0 歳以上 5 歳未満	6.1 億円 (+0.9 億円)	44 アレルギー用薬 (3.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.9 億円)	61 抗生物質製剤 (0.4 億円)
5 歳以上 15 歳未満	13.6 億円 (+1.8 億円)	44 アレルギー用薬 (7.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.8 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.8 億円)
15 歳以上 65 歳未満	281 億円 (+14 億円)	21 循環器官用薬 (69 億円)	11 中枢神経系用薬 (67 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(27 億円)
65 歳以上 75 歳未満	175 億円 (▲7 億円)	21 循環器官用薬 (67 億円)	11 中枢神経系用薬 (22 億円)	23 消化器官用薬 (22 億円)
75 歳以上	332 億円 (+15 億円)	21 循環器官用薬 (114 億円)	11 中枢神経系用薬 (54 億円)	23 消化器官用薬 (50 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,325 円	1,692 円(北海道)	1,125 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+0.6%	+3.8 % (香川県)	▲2.2 % (岩手県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	84.6 %	90.8 % (沖縄県)	80.7 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.3 %	21.5 % (鹿児島県)	16.2 % (京都府)
後発医薬品調剤率	80.5 %	86.0 % (沖縄県)	76.6 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	60.0 %	67.2 % (沖縄県)	56.4 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和5年度8月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。